384　心筋梗塞長期観察例におけるPTCAの虚血改善様式の検討

秋元奈保子、三山幸子、砂入美穂、塚原玲子、上嶋権兵衛（東邦大学二内）　山崎純一、森下　健（同一内）　矢部喜正（同循セ）

PTCA成功例に対し、PTCA前後に運動負荷Tl-201心筋SPECTを施行し経時的に周辺部を含む梗塞部心筋虚血改善様式について検討した。　症例は陳旧性心筋梗塞40例でありPTCA前とPTCA10日後及び遠隔期にSPECTを施行した。負荷心筋SPECTはSymptom limitedで行い最大負荷時に201-Tl2.4MBq/Kgを静注し約1分間運動継続の後に初期像を、3時間後に遅延像を撮像した。これにより再分布の有無、Defect scoreを算出した。またPTCA後の再狭窄の程度など冠動脈所見も加え検討を行った。　PTCA後に虚血改善が示されない症例においても遠隔期に改善を呈するものがあり、興味ある知見をえた。

385　核医学的ＰＴＣＡの効果判定－Tl-201および心プールSPECTによる冠潅流改善とhibernationの評価

橋本暁佳、中田智明、長尾和彦、高橋尚子、土橋和文、田中繁道、飯村攻（札幌医科大学第二内科）津田隆俊、久保田昌宏（札幌医科大学放射線科）

ＰＴＣＡの核医学的効果判定を臨床所見、冠潅流状態、収縮、拡張動態から検討.狭心症27例のsuccessful PTCA前後に運動負荷Tl-201SPECTと心プールplanar法とSPECT(位相解析法）を施行.ECG,運動耐容時間、RPPの改善(それぞれ76%、61%, 81%)に比して冠潅流の改善(視覚的判定、bull's eye method)は86%~92%.また、左室駆出率に変化は認められなかったが、局所壁運動並びに拡張機能(PFR)の改善はそれぞれ63%、52%認められた.以上、Tl-201および心プールSPECTはＰＴＣＡの核医学的効果判定上冠潅流改善とhibernationの検出の点で極めて有用であると考えられた.

386　バイパス手術後症例のタリウム（Tl）負荷心筋ＳＰＥＣＴにおいて、正常washout rate（WR）に伴った一過性欠損所見は虚血を表現しているか？

高尾祐治、小野口昌久、大竹英二、丸野廣大、村田　啓（虎の門病院・放）、小宮山伸之（同・循センター）

バイパス術後患者のTl負荷心筋SPECTにおいて、一過性欠損を示した53例を最低WR値が正常だった29例(H)と異常低値だった24例(L)とに分類し、Hの臨床的意義を検討した。また一過性欠損を認めずＷＲも正常だった23例を正常群(N)とした。Hは、Lと比較して胸部症状とST低下所見の出現頻度が低く最高ＷＲ値もLの方が低値だったが、一過性欠損と再分布の程度はHとLの間に有意差を認めなかった。またHはNと同等のＷＲ値だったが、胸部症状とＳＴ低下所見の頻度はNより高い傾向にあった。この結果から、Hの一過性欠損はごく軽度の虚血により出現した可能性が示唆された。

387　PTCA前後における運動負荷Tl-201心筋SPE-CTとジピリダモール負荷体表面マッピングとの対比検討

富田保志，杉野幹夫，青木理彰，鈴木晃夫，加藤林也，渡辺俊也，安井昭二(国立名古屋病院内科）　仙田宏平（国立名古屋病院放射線科）

労作性狭心症患者を対象に，PTCA前後のほぼ同一時期に運動負荷Tl-201心筋SPECT(E)とジピリダモール負荷体表面マッピング(D)を施行し，各検査法より求めた虚血量指標の相関およびPTCA前後での変化を検討した。虚血量指標としてEではextent scoreおよびseverity score，DではnSTおよびΣSTを算出した。Eに比しDでは虚血の検出されない例が存在した。PTCA後，各虚血量指標とも有意に減少した。EおよびDより算出した各虚血量指標は良好な相関を示した。完全血行再建例でも両検査法で陽性を示すものがあった。EおよびDは虚血量の把握に有用な検査法と考えられた。

388　冠動脈再灌流療法による心筋salvageの核医学評価法の検討..早期ＰＹＰ，Ｔ１安静時再分布像、Ｔ１運動負荷24時間像

安部美輝、近藤真言、坪川明義、谷尾仁志、霜野幸雄（市立島田市民病院循環器科）

再灌流療法後心筋salvage検討のため本院で行われている核医学的評価法を総合的に検討。　再灌流療法直後の早期ＰＹＰ、2週後の安静Ｔ１、4週以降の負荷Ｔ１シンチで、安静Ｔ１は3hr、負荷Ｔ１は24hrまでの再分布像を撮影。　核医学評価法、急性・慢性期左室造影の全て施行の18例。早期ＰＹＰ2+以下が8例（G-1）、3+、4+が10例（G-2）。G-1はG-2に比し安静、負荷Ｔ１初期defect scoreは小、安静ＴｌRRDは高頻度、regional EFは大であった。しかし、RDは負荷Ｔ１24時間像で差は認めなかった。　ＴｌRD評価と共に早期ＰＹＰの集積度、安静ＴｌRRDは心筋salvageの指標となると考えられた。

389　負荷心筋ＳＰＥＣＴにおける偽陰性例の検討

吉岡公一郎、井出　満、田辺晃久、田川隆介、高橋潔、細川丈志、臼井和胤、五島雄一郎（東海大学第一内科）鈴木　豊（同放射線科）

^{201}Ｔ１負荷心筋シンチグラムは心電図法に比較し診断精度が高く虚血性心疾患の診断に繁用されている。しかしながら、運動負荷時に自覚症状の発現または有意な虚血性ＳＴ変化がみられたにもかかわらず、再分布のみられない偽陰性例を経験することも少なくない。今回、我々はこの偽陰性例を詳細に検討することにより偽陰性例の特徴を明かにし、検査感度を上げることを目的とした。３年間に経験した偽陰性例１９例（男１４例、女５例　平均年令４８歳）を対象とし、その臨床的特徴、冠動脈造影所見および検査時の手技、運動負荷時のend point、心電図、前投薬の有無及びその種類につき検討した。

Presented by Medical*Online